

# 6つの理由…

## 鹿児島の企業の具体例

### ユースエール認定企業 A社の場合

#### 1 フレックスタイム制度の導入

残業削減の取組を行った結果、フレックスタイム制の導入に至りました。納期等の関係で、どうしても残業を行った翌日など、ゆっくりした時間での出勤が可能となります。フレックスタイム制でなければ、定時出社に縛られてしまいますが、フレックスタイムですと病院などに寄る場合も、有給休暇を使わずに時間の調整により対応できます。

#### 2 テレワークの導入

コロナ禍以前の2018年より、テレワークが導入されています。

#### 3 無駄の排除

例えば、有給休暇の取得の際も、届出書を書く時間が惜しいので、届出書はなく、業務連絡掲示板を使用し、会議においても、紙の資料は使用せず、電子掲示板を使って会議を行うなど、小さなものでも無駄を省いていくことで、労働時間の短縮に繋がっています。

### プラチナくるみん認定企業 B社の場合

1 入社時の研修により、「就業規則」全般及び「育児・介護休業等取扱規程」を説明し、社内イントラに同規程を掲示しています。会社の規則がいつでも見ることが出来ると、安心して働けます。

2 毎週水曜日をノー残業デーとしています。業務がなければ、いつでも定時に帰って問題ないのですが、ノー残業デーを取って設けることで、メリハリのある仕事ができるものです。

3 有給休暇取得率を高めるよう、社内で定期的にお知らせしています。大自然を探索しつつ、働くときは一生懸命働き、メリハリのある人生を送って下さい。



## 鹿児島の認定企業等 (R8.1.1現在)

● **ユースエール認定制度 (県内34社認定)**  
若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度です。



● **くるみん・プラチナくるみん認定制度 (県内プラチナくるみん7社・くるみん65社・トライくるみん1社)**  
仕事と、育児や介護などの家庭生活との両立支援に積極的に取り組み、男性の育児取得など、一定の基準を満たした企業を、厚生労働大臣が認定する制度です。



● **えるぼし・プラチナえるぼし認定制度 (県内プラチナえるぼし1社・えるぼし28社)**  
女性の活躍に積極的な取組を行っており、女性の継続就業や管理職の割合など、女性の活躍に関する一定の基準を満たした企業を厚生労働大臣が認定する制度です。



● **かごしま「働き方改革」推進企業認定制度 (県内87社認定)**  
長時間労働の是正や、休暇の取得促進等の柔軟な働き方がしやすい環境整備などに取り組み、一定の基準を満たした企業を鹿児島県知事が認定する制度です。



● **かごしま子育て応援企業制度 (県内853社登録)**  
鹿児島県では、企業の子育て支援を促進するため、従業員の仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組む企業を「かごしま子育て応援企業」として登録しています。



## 鹿児島の企業情報等検索サイト (行政)

- 1 鹿児島労働局HP  
<https://jsite.mhlw.go.jp/kagoshima-roudoukyoku/>
- 2 ハローワークインターネットサービス  
<https://www.hellowork.mhlw.go.jp/>
- 3 かごJOB (鹿児島県)  
<https://www.kagojob.jp/>
- 4 女性の活躍推進企業データベース  
[http://positive-ryouritsu.mhlw.go.jp/positivedb/search\\_res](http://positive-ryouritsu.mhlw.go.jp/positivedb/search_res)
- 5 働き方・休み方取組・参考事例検索  
<http://work-holiday.mhlw.go.jp/case/>
- 6 鹿児島市しごと情報ナビ  
<http://www.city.kagoshima.lg.jp/shigotonavi/index.html>



平成29年「鹿児島県のよりよい雇用・労働環境実現に向けた政労使会議」参加機関  
 ・鹿児島県商工会議所連合会 ・鹿児島県経営者協会 ・鹿児島県中小企業団体中央会  
 ・鹿児島県商工会連合会 ・一般社団法人鹿児島県銀行協会 ・鹿児島相互信用金庫  
 ・南日本銀行 ・日本労働組合総連合会鹿児島県連合会 ・経済産業省 九州経済産業局  
 ・鹿児島県 ・鹿児島県教育庁 ・鹿児島県庁  
 ・鹿児島大学COC+推進部門 ・(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 ・鹿児島労働局

※平成30年より当該会議は新たに設置された「鹿児島働き方改革推進協議会」に取り込まれています。  
 発行元: 鹿児島労働局 (雇用環境・均等室)  
 〒892-8535 鹿児島市山下町13-21 TEL:099-223-8239 発行:R8.2.27

# 鹿児島で働くということ



この企画は、平成29年「鹿児島県のよりよい雇用・労働環境実現に向けた政労使会議」(参加機関は裏面)で決定されたものです

# 鹿児島で働く

## 考えよう! 住む&働く場所 学校編



## 鹿児島で働く魅力について

鹿児島県の企業の大多数は、従業員300人未満の中小企業であり、本県の経済をけん引するとともに、雇用の場として、大きな役割を担っています。鹿児島には魅力的な中小企業が数多くあり、中小企業ならではの働きがいもあります。

### 働きがい1 マルチプレイヤー

大企業では、業務が細分化されていますが、中小企業では、1人でいくつもの役割を担う場合が多く、責任も重大。でも、30歳前半で課長ということもあり得るなど、本人のやる気次第で、仕事の可能性が大きく広がり、やりがいにも直結しやすいのです。

### 働きがい2 風通しの良さ

企業規模が小さく、営業所等が少なければ、社長、上司、同僚と日常的に会話ができます。自分のアイデアを社長、上司に伝える機会も増え、また、会社の社長の方針など、直接聞く機会も多いので、日々、刺激を受けます。仕事の悩みなども、社長をはじめ、会社ぐるみで解決してもらえることも…。

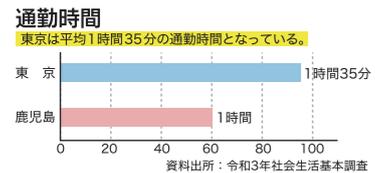
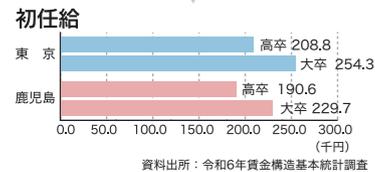
### 働きがい3 地域とのつながり

中小企業は、その地域にしっかりと根を張り、地域の方々を支え、また地域の方々に支えられてこれまで成長してきました。生まれ育った地元に住める機会が増えるのも魅力です。

# 鹿児島と東京の生活をライフステージごとに「見える化」してみました!

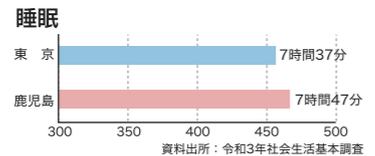
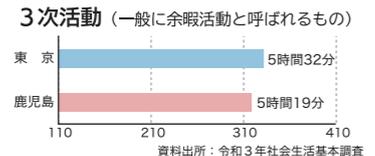
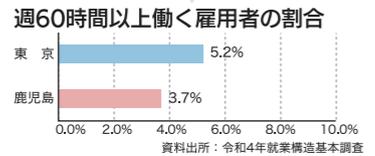
## 就職

**通勤事情**  
東京の平均通勤時間は1時間30分以上。また、多くの方は満員電車で座れず、また、乗換えを行いつつ通勤しています。職場に着いたころにはくたくたに…。これが、定年まで続きます。一方、鹿児島県は1時間程度。鹿児島市内の一部を除いて、ほとんどは座って(バス・自家用車等)通勤できます。



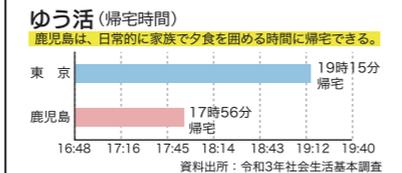
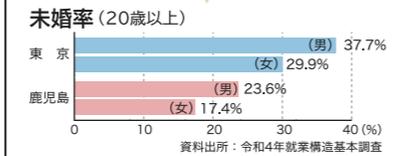
## 恋愛

**余暇**  
東京は残業の時間や通勤時間が鹿児島より長いので、帰宅時間も遅く、睡眠時間も短くなっています。鹿児島で余暇を楽しみたいいきいきと暮らしませんか!



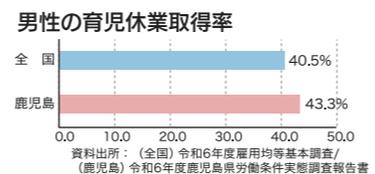
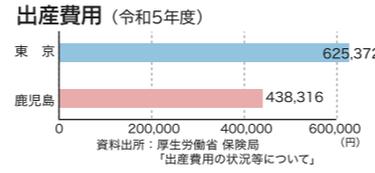
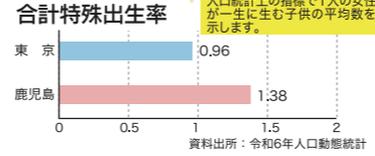
## 結婚

**結婚生活**  
鹿児島は、東京と比べ、帰宅時間も早く、日常的に家族で夕食を囲むことができ、仕事と結婚生活の調和を図ることができます。



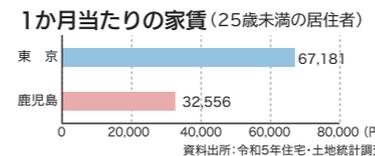
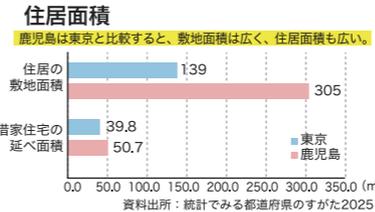
## 出産

**保育所等**  
鹿児島は東京と比べ保育園等に入れない待機児童率が低く、自然も豊富な上、安心して子育てができる環境にあります。



## 住宅購入・支出と生活

**住宅事情**  
25歳未満の居住者の1ヶ月家賃の平均は、東京は67,181円、鹿児島は32,556円と34,625円もの差がある上に、東京は通勤時間が1時間以上かかる場所がほとんどです。給与が高くとも、家は狭く、通勤時間も長い…。これが東京の実現です。

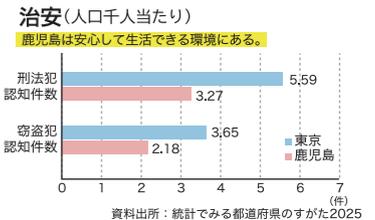
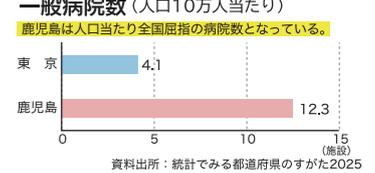


**実支出**  
1世帯(夫婦+子供2人)の実支出データを見ますと、鹿児島の方が月あたり約6.6万円支出が少なく、東京や都会が支出の高い理由としては、住居費や食費が鹿児島より高いことなどがあります。東京は刺激的な街ですが、生活コストも日本一であり、この点も生活していく上で、比較検討してみてください。



## 退職後

**住みよい鹿児島**  
東京は刑法犯(全国6位)・窃盗犯(全国9位)と数が多くなっています。比べて鹿児島は比較的治安が良いことが分かります。また、病院数は人口10万人あたり、東京は4.1施設、鹿児島は12.3施設と全国屈指の病院数を誇ります。図書館数も多く東京28.6施設に対し鹿児島は40.0施設と退職後も暮らしやすいことが分かります。



## 鹿児島に住んでいると気づかない鹿児島の良さ

就職を考えるにあたり、ここでは「鹿児島に住み働く魅力」について、ライフステージを通して、東京と比べ「見える化」してみました。

東京は収入面では恵まれています。また、娯楽等、若者にとって刺激的な魅力にあふれていますが、生活費、教育費等、相当な経費も必要です。また、渋滞や混雑などの生活環境の問題等、数多くのプレッシャーもあります。一方、鹿児島には、お金だけではなく、**自然、人間関係、衣・食・住環境等々、数えきれない魅力があります。**また、仕事面でも、都市部の大企業では人間関係が希薄になりがちで、あまり味わうことができない**家族的なぬくもり、地域への貢献等のやりがい**が鹿児島の企業にはあります。**通勤ラッシュも少なく、通勤時間も都会の比ではありません。**若い皆様には、そのあたりの実感は湧かないでしょうが、現に、UIターンで地方に戻ってきた方々へのアンケートでは、**「家族で夕食を食べる頻度**

安心・安全な生活環境を選ぶなら、都会より鹿児島だよね!



**が増えた**」等、相対では地方での**ゆとりある生活**がプラスの評価となっています。そのような環境も反映してか、未婚率は男女ともに東京が鹿児島より高く、結婚後の出生率は、東京0.96人、鹿児島1.38人となっており、都会は結婚・育児には厳しい環境と言えます。都会の密な環境より、鹿児島ののんびりとした人を大切にできる生活が「安心・安全」な生活につながりやすいかもしれません。大自然に恵まれた鹿児島でストレスも少なく生活することは、大変大きな魅力があると考えても良いのではないのでしょうか。